

たどつのむかし

Vol. 16

「町内で新たに発見された遺跡：北の前2号墳」



写真 北の前2号墳検出状況(南東から)

多度津町内には今まで102箇所の遺跡が存在していました。今回新たに103番目の遺跡として「北の前2号墳」が登録されました。

北の前2号墳の内容は横穴式石室を持つ古墳時代後期(1500年前頃)の古墳です。出土遺物等はありません。

この古墳の近くには以前から「北の前古墳」と呼ばれる横穴式石室をもった古墳時代後期頃の古墳がありました。そしてこの古墳の過去の記録には「もとは3基あったらしく、1基は根石と鏡石の1部を残し、もう1基は消滅。」と記載されていました。この「根石と鏡石の1部を残し」の部分に関しては、以前より近くの斜面に石室の石材らしきものが露頭しているのは分かっていました。今回は斜面地の様子を観察する機

会に恵まれたため、草を刈り、現状を確認し、新規の古墳であるという結果を得ました。

写真のように2つの石が並行して並んでいるのが確認されました。これらの石は横穴式石室を構成する玄室(棺を納める部屋)という場所の、側壁と呼ばれる部分の石材であると考えられます(図1)。さらに土地所有者の話によると過去には奥壁と呼ばれる玄室一番奥の石材も見えていたようです。本来なら羨道と呼ばれる玄室に向かう通路が横穴式石室にはありますが、残念ながら北の前2号墳では天井石や羨道を含んだ石室の多くが失われているようです。

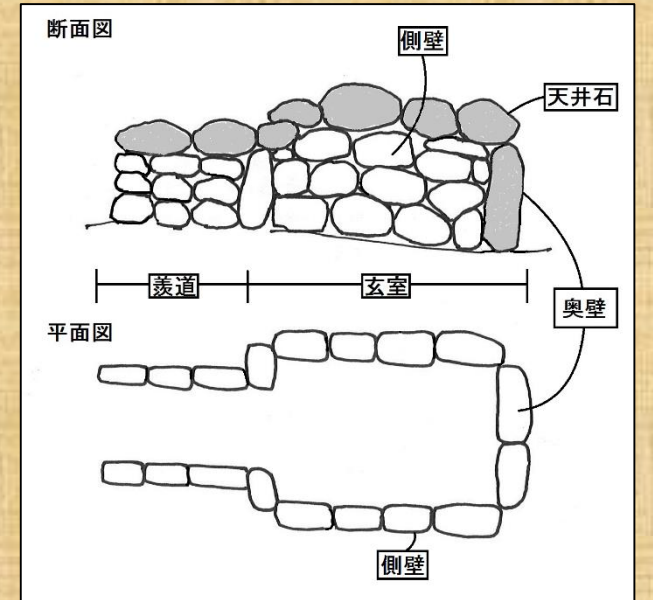


図1 横穴式石室模式図

しかし今回の古墳の発見で、奥白方北の前地区には北の前古墳が単独ではなく、複数の古墳が集中する地域であったということが分かりました。やはり奥白方は古墳の一大集積地だったのでしょう。

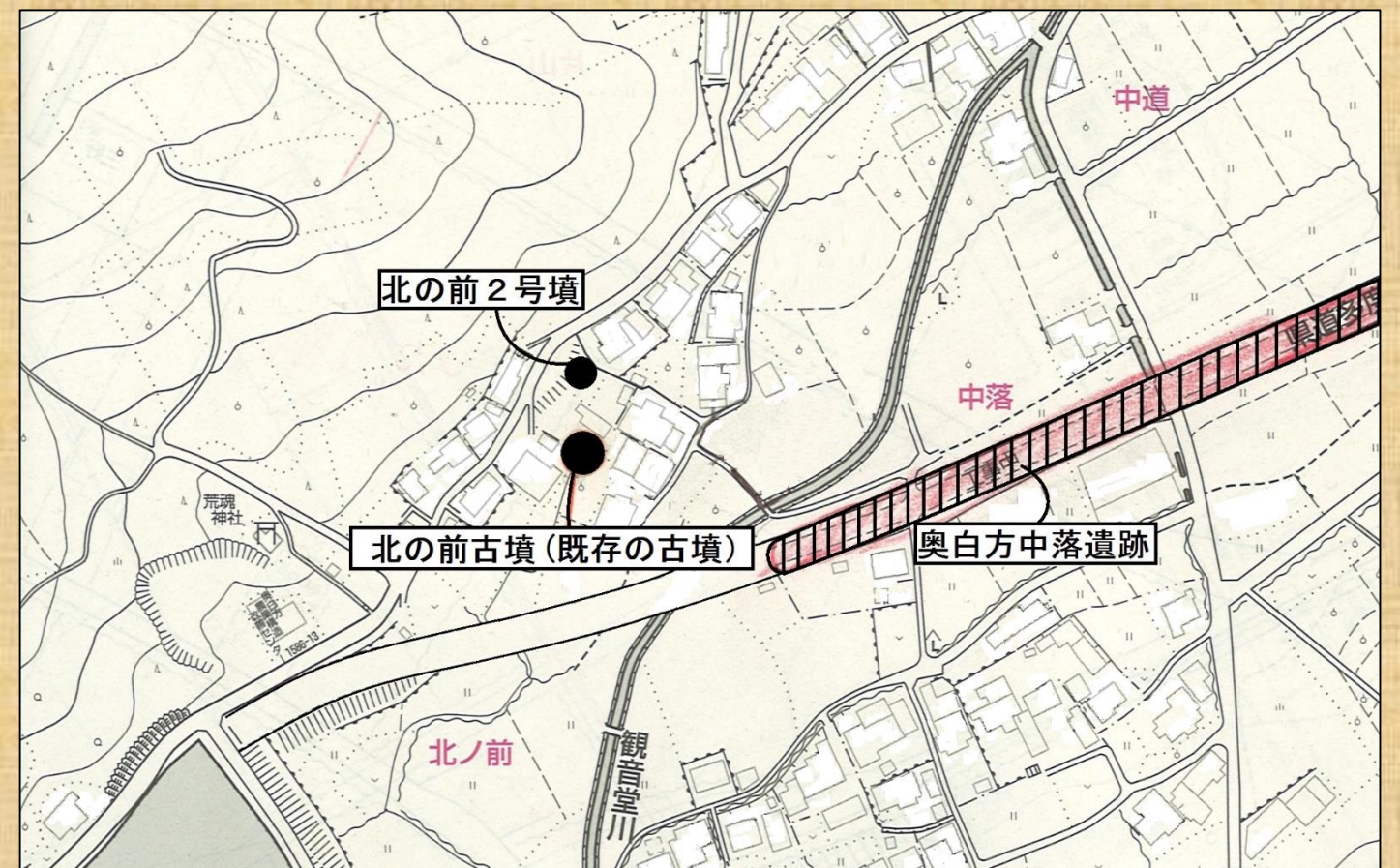


図2 遺跡位置図